

四万十川河口砂州復元の促進について

高知県の西南地域に位置する四万十川は、日本最後の清流といわれるほど自然のままの姿を多くとどめている。我々川漁師も、春夏秋冬様々な恵みをいただきながら生活できる貴重な河川でした。

特に河口部の広大で安定した汽水域は全国的に珍しく、スジアオリ、アユの仔魚などの水産資源をはじめとする様々な生物のゆりかごとなっていました。

近年四万十川全域の河川環境の変化などから水産資源の不漁が続いています。それに加え平成21年秋以降は河口の砂州が消滅し、汽水域の環境が従来と大きく変わったことから、組合員の間でも危機感が大きく、砂州を復旧し、元の安定した汽水域に戻してもらいたいと要望するものです。

また四万十川全体として水産資源の不漁が続いていることから平成19年度より市と高知大学とが連携しスジアオリ及びアユの生態や生育環境を科学的に調査し、また河川の水質などを長期的に観測するなど基礎的なデータを収集し、不漁の原因を解明するとともに漁獲量回復に向けた取組を漁協とともに行っているところです。その中の報告会等でも砂州についてはデータが少ないもののその影響について示唆されています。

つきましては、当組合の事情を十分ご賢察いただき、砂州の早期復元を実現するために特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

四万十川下流漁業協同組合

代表理事組合長 沖 階 吉

